

授業科目名	職教課程D(学校における異文化理解)(2100205)		
時間割名	教育課題D学校における異文化理解(42113)		
時間割担当	オチャンテロサ		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・2		

授業の目標・概要

本講義では異文化教育の基礎を身につけると共に、「多文化社会」になりつつある日本の現状について学ぶこととする。また、公立学校に通うニューカマーの子どもたちの学校生活と現状を知り、外国にルーツを持つ子どもたちがどのようなニーズを抱えているのか、異国で生活する、そして異国で学ぶ難しさについて、教育での実践を例に理解していくこととする。学校における異文化的環境を肯定的な概念として捉え、「共に学べる」環境作りの重要性について言及する。

学習の到達目標

将来、教員を目指している学生が、学校における異文化と多文化教育の概要を理解する。徐々に増えている外国にルーツを持つ子どもたちの現状と背景を知り、彼らへの指導と支援の方法を考え、理解する。多文化教育のニーズに対応でき、文化や言葉の違いを超え、相互の違いを受け入れる教員の育成を目指す。

授業方法・形式

授業は講義形式を基本とするが、毎回異なるテーマを取り上げるため、議論などのグループディスカッションを行う。感想文の作成も行う。受講生が自発的に発言し、共に考える時間を持つ。

授業計画

- 第 1 回 学校における異文化とは
授業の内容を紹介しながら、学校における異文化の実態について知る。
- 第 2 回 異文化教育とは
日本における異文化教育の実態について概説する。
- 第 3 回 日本の多文化化社会の現状と実態
入国管理局法令の改正による、外国人登録者数の増加や、来日している外国人労働者の問題について。
- 第 4 回 EUなど移民受け入れ国の異文化教育の実態について。
- 第 5 回 ニューカマーの子どもたちの増加と実態
現在の公立学校に学ぶ日本語指導が必要とする子どもたちの実態について知る。
- 第 6 回 ニューカマーの子どもたちの受け入れにあたって、学校運営上の課題と国際教室での成果
- 第 7 回 ニューカマーの子どもたちの学校生活、文化について知る。
外国にルーツを持つ子どもたちの立場から、彼らが抱えているニーズについて検討する。
- 第 8 回 ニューカマーの子どもたちの言語取得問題
生活言語と学習言語について概説する。スペイン語の模擬事業を实践しながら、学生が異国で学ぶ難しさについて検討し、理解する。
- 第 9 回 外国にルーツを持つ子どもたちの家庭と学校の連携の重要性
教育制度の違いを知り、学校からの便り・お知らせについて、分かりやすく伝えるための工夫を考える。
- 第10回 外国にルーツを持つ子どもたちの高校への進学と将来への展望
進学するにあたって現れるジレンマとドロップアウトするケースについて概説する。
- 第11回 皆に分かりやすい授業とは
事例研究を見ながら、「共に学べる」分かりやすい授業作りについて考え、検討する。
- 第12回 学級担任としての役割
先生としての個人の認識とクラス運営での受け入れる環境
- 第13回 教育委員会も含む学校組織で受け入れる環境
実践的な例を見ながら、都道府県の実態について概説する。
- 第14回 国際理解教育とは
学校において、多文化交流を通しての気づき、互いの違いを受け入れ、多様な考えを持つ子どもの育成を目指す。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけた論述方法についてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(30%)さらに、個別計画書の作成の緻密さなどを評価する。(30%)さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。(40%)

準備学習・復習及び授

授業中に配布するレジュメに参考書などを紹介するため、授業時間外でそれらを読んでくることをおすすめする。授業で学んでいく異文化理解の基礎的な知識を日常生活に活かして、行動に移してしていく。

履修上のアドバイス

人間教育学の基礎に関する科目で学んだ知識を活かし、学校や教室の中の異文化を理解し、開かれた考え方をもちながら、様々な指導の場面で活用する。日本で暮らす外国人、特に「日系ブラジル人やペルー人など南米出身の人たち」に関連するニュースや記事に目を通すことや、図書館またはインターネット等でニューカマーが抱えている問題について情報を得ておくこと。

教材・教科書

教科書は使用しないが、必要なプリントを配布する。また参考書も紹介する。

参考書

参考書として、宮島喬 外国人の子どもの教育：就学の現状と教育を受ける権利 東京大学出版会 2014
西山教行，細川英雄，大木充 「異文化間教育とは何か グローバル人材育成のために」(リテラシーズ叢書4) くるしお出版
2015